

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪成蹊大学
設置者名	学校法人 大阪成蹊学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
経営学部	経営学科	夜・通信	24	34	74	132	13	
	スポーツマネジメント学科	夜・通信			36	94	13	
	国際観光ビジネス学科	夜・通信			0	58	13	
芸術学部	造形芸術学科	夜・通信		14	98	136	13	
教育学部	教育学科	夜・通信		12	227	263	13	
国際観光学部	国際観光学科	夜・通信		6	65	95	13	
データサイエンス学部	データサイエンス学科	夜・通信	22	12	60	94	13	
看護学部	看護学科	夜・通信	8	5	117	130	13	
(備考) データサイエンス学部データサイエンス学科及び看護学部看護学科の全学共通科目は教育課程上の大学共通科目のうち開講が限定的であるため単位数を別建てとした。また各学部における免許資格科目については計上していない。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

公表方法：大阪成蹊大学ホームページ「シラバス」内で公表。 https://univ.osaka-seikei.jp/departments/syllabus/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪成蹊大学
設置者名	学校法人大阪成蹊学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大阪成蹊学園ホームページ上の「情報公開」「寄付行為等」「役員関連」内で公表。 https://osaka-seikei.jp/disclosure/kifu/index.php

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	R8.4.1 ～ R12.6月 定時評議員 会	法務
非常勤	大学教授	R7.10.1 ～ R11.6月 定時評議員 会	教学運営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪成蹊大学
設置者名	学校法人 大阪成蹊学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

中央教育審議会の答申や政策的な提言を含めて、本学のディプロマ・ポリシーとの関連性も踏まえつつ、学生にとって分かりやすいシラバスの作成に努め、授業の質や教育成果について、常に検証を行っている。

平成29(2017)年度から、シラバス入力の新フォーマットの構築、シラバス作成の手引きの策定、シラバスチェック体制の構築、シラバス作成及びチェックにあたってのFD研修会の開催等を行っており、現在に至っている。平成30(2018)年度には、シラバスの記載項目に実務経験の有無の記載欄の新設や、授業の事前・事後の学修課題の記載の具体化等を図った。シラバスにおける記載事項は、全学的な教学改革の取組を反映したものであり、例えば、各授業の養うべき力と到達目標におけるディプロマ・ポリシーに掲げる各要素との対応の明記、アクティブ・ラーニングを促す方法の明記、成績評価の方法・割合・基準等の明記、学外連携学修の有無と連携先の明記、授業外の学修課題や目安となる学修時間等の明記などである。令和元(2019)年度には、シラバス作成にあたっての留意点や作成例を充実させ、定期試験の扱いに関する注意を新たに徹底した。令和2(2020)年度から現在までは、新型コロナウイルス感染症の対策を十分に施しながら、遠隔授業でも教育効果をしっかりと保つことができる科目については限定的に遠隔授業で実施し、また、対面で実施する方が学生の満足度を高め、修熟度を深める科目については対面授業で、と2つの実施方式を併用(ハイブリッドでの対応も含む)させることで、質の保証を担保し、教育効果を損なわない授業の運営に努めた。

学生と担当教員の間で、当該科目における学修イメージを事前に共有することの出来る分かりやすいシラバスを作成している。記載項目の充実や各教員の記載方法の工夫を図るとともに、科目区分ごとの本学専任教員によるシラバスチェック体制を充実させ、複数の教員の視点を踏まえたシラバス作成によって、質の向上を毎年図っている。

◆シラバスの作成・公表時期

- (1) 作成時期 12月～2月
- (2) 公表時期 3月下旬(在学生オリエンテーションをめぐり)

◆シラバスの作成過程

- (1) 授業担当教員はブラウザ上から学生ポータルシステムに教員アカウントでログインし、シラバス入力を行う。(～1月末日)
- (2) シラバスを1次チェック担当教員がブラウザ上で確認、チェックリストに基づき、担当ごとに1次チェックを実施する。(2月～)
- (3) 授業担当教員は1次チェック結果を受け取り、修正を行う。(～2月中旬)
- (4) 2次チェック担当教員がブラウザ上で2次チェックを実施する。(～2月下旬)

＜シラバス記載項目＞

①授業概要 ②実務経験のある教員による授業科目 ③養うべき力と到達目標（特にディプロマ・ポリシーについては選択できる形としている） ④学外連携学修 ⑤授業方法（アクティブ・ラーニングを促す方法について） ⑥課題や取組に対する評価・振り返り ⑦成績評価（評価方法・割合・基準等） ⑧使用教科書 ⑨参考文献等 ⑩履修上の注意・備考・メッセージ ⑪オフィスアワー・授業外での質問の方法 ⑫授業計画（タイトル・授業内容・授業外学修課題・目安の時間） ⑬アクティブ・ラーニング推進計画

授業計画書の公表方法

大阪成蹊大学ホームページ「シラバス」内で公表
<https://univ.osaka-seikei.jp/department/syllabus/>
学生は、学生ポータルシステムでも閲覧可。
https://portal.osaka-seikei.ac.jp/web_gen/

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

各教員は担当授業の学修到達度を査定する際には、シラバスに記載の「成績評価方法」「評価割合」「評価の基準等」に基づいて評価を行う。また、特に、レポート、作品・ポートフォリオ、プレゼンテーション、卒業論文などによる質的評価を行う科目では、適宜ループリックを開発・活用している。加えて、成績評価ガイドラインを定め、成績評価にあたっての考え方や、各評語に関する共通理解を図り、公正で客観的な成績評価に努めている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

本学では、学生の学修成果の獲得状況を客観的に数値化して比較するために GPA 制度を導入し、学生の学修状況の把握・分析、学修・履修指導への活用、成績優秀者への表彰等に活用している。学生に対しては、履修オリエンテーションにおいて、GPA 制度の目的や GPA の算出方法、活用方法等を周知している。また、期末毎に配付される成績表に単位取得数とともに GPA を表記して、フィードバックしている。

成績の分布状況の把握にあたっては、半期ごとに全授業の成績評価分布のデータを分析して、成績評価の現状と課題を検証し教学改革会議において報告している。検証結果をもとに、成績評価に著しい偏りの見られる教員への改善指導や、ループリックの活用の推進を図り、公正で客観的な成績評価の実施に努めている。

成績の評語、評点、及びグレードポイント（GP）は、次表のとおり定めている。

区分	成績の評語	評点	GP	評価基準
合格	秀	100 点～90 点	4	「優」の評価以上に優れている
	優	89 点～80 点	3	授業科目の到達目標以上に高度な内容を身につけており、授業で身につけるべき内容を十分に習得している基準を超えて優秀である
	良	79 点～70 点	2	「可」評価以上に優れているが「優」評価に満たない場合
	可	69 点～60 点	1	授業科目の到達目標を満たしており、授業で身につけるべき最低限の内容を習得している
不合格	不可	59 点以下	0	授業科目の到達目標を満たしていない

GPA は、次の式により計算し、小数点以下第二位の値を四捨五入する。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{履修科目の単位数} \times \text{その科目の GP}) \text{ の総和 }}{\text{履修科目の単位数の総和}}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大阪成蹊大学ホームページ内で GPA 制度に関する規程（大阪成蹊大学履修規程）を記載した履修ガイドを公表
https://univ.osaka-seikei.jp/students/pdf/guide_univ.pdf
【履修ガイド】GPA 制度に関する規程（大阪成蹊大学履修規程）を履修ガイドに掲載し、全学生に配付し公表している。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を下記のとおり定め、本学の建学の精神「桃李不言下自成蹊」を体現する「人間力」のある人材として、卒業の認定に際して「何ができるようになっているか」を明確に示している。また、大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる育成する人材像と構成要件を揃えながら、学部・学科別の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を策定している。

各授業のシラバスで示す「養うべき力と到達目標」は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる各要素と対応するよう設定し、到達目標の達成度を、同じくシラバスに明示する成績評価方法、割合、基準等に基づいて、適切に評価して単位を認定している。卒業要件となる単位数は、学則第 45 条において、科目区分ごとに定め、合計 124 単位以上の修得を要件としている（看護学部においては 132 単位以上の修得を要件としている）。4 年生後期の成績評価終了後、速やかに卒業判定教授会を開催し、各学生の単位の修得状況が卒業要件を満たしているかにつき確認し、卒業判定を行っている。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

概要

本学では卒業要件単位の修得を通して、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与します。学士には、幅広い分野・領域で高い専門性を発揮するための確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。

確かな専門性

1. 確かな専門性を磨くための幅広い教養やスキルを身につけている。
2. 専門に関わる確かな知識・技能、職業理解を身につけている。
3. 知識・技能を実践の中で応用することができる。

社会で実践する力

4. 論理的に考え、課題を明らかにすることができる。（課題発見）
5. 豊かな発想力によって、未知の課題にも創造的に取り組むことができる。（企画・立案）
6. 主体性を持ち、積極的に行動することができる。（行動・実践）
7. 困難な課題にも挑み、最後までやりとげることができる。（完遂）

協働できる素養

8. 他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる。
9. 集団やチームの中で固有の役割を果たすことができる。

忠恕の心

10. 常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができる。

卒業の認定に関する 方針の公表方法

履修ガイドを毎年度全学生に配付し公表。
大阪成蹊大学ホームページ上の「教育研究上の目的と 3 つのポリシー」及び各「学部紹介」内で公表。
大学全体：
<https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/policy/>
経営学部：
<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>
芸術学部：
<https://univ.osaka-seikei.jp/department/art/policy/>
教育学部：
<https://univ.osaka-seikei.jp/department/education/policy/>
国際観光学部：
<https://univ.osaka-seikei.jp/department/global/policy/>
データサイエンス学部
https://univ.osaka-seikei.jp/department/data_science/policy/
看護学部
<https://univ.osaka-seikei.jp/department/nursing/policy/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪成蹊大学
設置者名	学校法人大阪成蹊学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学園ホームページ上の「情報公開」内で公表 https://osaka-seikei.jp/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	学園ホームページ上の「情報公開」内で公表 https://osaka-seikei.jp/disclosure/
財産目録	学園ホームページ上の「情報公開」内で公表 https://osaka-seikei.jp/disclosure/
事業報告書	学園ホームページ上の「情報公開」内で公表 https://osaka-seikei.jp/disclosure/
監事による監査報告(書)	学園ホームページ上の「情報公開」内で公表 https://osaka-seikei.jp/disclosure/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和8年度 事業計画 対象年度:令和8年度)
公表方法: https://osaka-seikei.jp/disclosure/
中長期計画(名称:令和8年度 中期経営計画 対象年度:令和8年度～令和12年度)
公表方法: https://osaka-seikei.jp/disclosure/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:大阪成蹊大学ホームページ内の「情報公開」内で公表。 https://univ.osaka-seikei.jp/disclosure/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:大阪成蹊大学ホームページ内の「情報公開」内で公表。 https://univ.osaka-seikei.jp/disclosure/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経営学部経営学科
教育研究上の目的（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等） https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/
（概要） 大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学科は、現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「ビジネス（業務の設計と運用）とマネジメント（経営資源の管理と活用）及び情報処理に関する基礎的能力とスキル」及び「コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を修得し、企業・組織の中で自分自身の役割を認識し、自分なりの考え方をもち、他人と協働しながら、現代の多様な経営課題の解決に貢献できる「人間力」を備えた人材を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等） https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/
（概要） 経営学部経営学科では、卒業要件単位の取得を通して、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与します。特に学士には、幅広い分野・領域で高い専門性を発揮するための確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。
確かな専門性 1. 現代社会におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる。（管理とビジネス運営） 2. 組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識、技能（企画・経営、会計、流通、商品開発、管理）を身につけ、職務に係る問題解決のために専門知識、技能を応用できる。（企業活動の専門知識とスキルの習得） 3. サービス産業における事業体の環境適応性を理解し、適切かつ効果的に組織化し、システムを有効に活用し、顧客に対するサービスの品質を維持・向上させることができる。（サービス業界への適応と組織化）
社会で実践する力 4. 現代社会やビジネス現場で遭遇する様々な状況から課題を見つけ出し、それが持つ意義や影響を理解できる。（課題発見） 5. 課題解決に主体的に取り組む意欲を持ち続け、課題に対して情報を分析し、戦略的な計画を立てて、実行可能な解決策を企画・立案することができる。（計画・立案）
協働できる素養 6. 自己の意見を正確に伝え、他者の意見を聴くなど協働を促進する対話ができる。（対話能力）

7. 社会や企業・組織の中で、協調しながら、与えられた役割を最後まで果たすことができる。（協調性・完遂能力）

忠恕の心

8. 常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができる。（対話能力・共感力）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

（概要）

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、系統的な教育課程を編成しています。また、教育効果を最大限に高められるように、授業の形式を問わずアクティブラーニングを推進しています。学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。

確かな専門性

1. 経営学を学ぶ上で必要とされる、マネジメント及びビジネスの仕組みを理解することに必要な経営学・会計学・マーケティング・経営統計・経営情報など基礎的な知識を修得するための科目を「学部基礎科目」、「学部基幹科目」に開講します。
2. 学部基幹科目、学部展開科目において、現代社会における組織や企業活動を遂行するため基本的な知識や技能を習得するとともに、統計データ分析等の理解を深める科目を開講する。また、学生が履修するコースの学びを深めるため、学科別専門科目「専門基礎科目」を開講します。
3. ビジネス現場で必要な知識、技能を深め、現代社会に適応するための見識や効果的に組織化するための能力を習得できる科目を学科別専門科目「専門基幹科目」「専門展開科目」および「オフキャンパス科目」に開講します。
4. サービス業界で自らの職務をより適切に遂行することが可能となる資格取得や各種検定合格を目指すための教育プログラムを正課外に設定し、学生の学修を支援します。

社会で実践する力

5. 企業連携PBL科目（社会連携PBL科目）を配置し、課題解決に向けて実行可能な解決策を企画・立案する。またその過程の中で、チームとして協調、協働の態度を養い、自分の役割を理解し、最後までやり遂げる能力を育成します。
6. 人々の生活や、社会が豊かにするための課題を発見し、その課題解決に向けた取り組みの重要性やその影響力について、調査・研究を論文としてまとめるため、専門演習科目「専門演習3・4（3年次開講）」「専門演習5・6（卒業研究ゼミナール）」を開講します。

協働できる素養

7. 大学共通科目における初年教育科目である「成蹊基礎演習1・2」及び「スタディスキルズ1・2」、2年次以降の専門演習科目において、他者の意見を聴く、自分の意見を正確に伝えるなどの対話を通じて課題の理解を協同で深める力を養う科目を開講します。また、学部横断型の連携科目の開講および学びにおいて関連性の高い科目について自由枠を活用して履修できることで、学部を超えた交流を育みます。

忠恕の心

8. 大学共通科目における教養科目において、創造力の育成、感性豊かな人間性の醸成、社会および自然への理解のために、「人間と智」「国際社会と日本」「科学と環境」「健康とスポーツ」及び外国語科目を中心として、他者のために献身する「忠恕の心」を養う科

目を開講します。

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実習」から構成されており、すべての授業において「アクティブラーニング」を進めています。「講義」では、教員の一方的な授業ではなく、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を展開しています。「演習」「実習」では、グループやペアで協力しながら課題に取り組む授業や、学外に出て、社会の人々との関わりの中で学びを深めていく授業、さらに自治体、企業、団体などと連携して、実際の社会で起きている様々な課題の解決に取り組む授業などを展開しています。また、学修の成果を振り返りながら、成長を実感したり、課題を明らかにしたりできる授業も展開しています。いずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。また、学生のジェネリックスキルの測定にあたっては外部試験を活用して客観的に把握できるようにしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

（概要）

教育目的

現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「ビジネス（業務の設計、運用）とマネジメント（経営資源の管理と活用）及び情報処理に関する基礎的能力とスキル」及び「コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を身につけ、現代の多様な経営課題の解決に貢献できる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学科では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲

（1）大阪成蹊大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。

（2）将来、産業界で活躍し、産業の発展に貢献したいという意欲を持っている。

2. 知識・技能

（3）高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。

（4）現代の社会に関する基本的な知識を身につけている。

3. 思考・判断・表現

（5）他者の意図を適切に理解し、自分の考えをわかりやすく表現することができる。

（6）現代の社会で起きている事象について論理的に考えることができる。

4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

（7）多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

学部等名 経営学部スポーツマネジメント学科 教育研究上の目的（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等） https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/
（概要） 大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学科は、現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「スポーツ業界に係るビジネス（業務の設計と運用）とマネジメント（経営資源の管理と活用）に関する基礎的能力とスキル」及び「コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を修得し、スポーツ産業における現代の多様な経営課題の解決に貢献できる「人間力」を備えた人材を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等） https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/
（概要） 経営学部スポーツマネジメント学科では、卒業要件単位の取得を通して、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与します。特に学士には、幅広い分野・領域で高い専門性を発揮するための確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。 確かな専門性 1. スポーツ業界におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）およびビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる。（管理とビジネス運営） 2. スポーツ業界における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識、技能（企画・経営、会計、流通、商品企画開発）を身につけ、職務に係る問題解決のために専門知識、技能を応用できる。（企業活動の専門知識とスキルの習得） 3. スポーツ業界の環境適応性を理解し、適切かつ効果的に組織化し、システムを有効に活用し、顧客に対するサービスの品質を維持・向上させることができる。（スポーツ業界の適応と組織化） 社会で実践する力 4. 現代社会やビジネス現場で遭遇する様々な状況から課題を見つけ出し、それが持つ意義や影響を理解できる。（課題発見） 5. 課題解決に主体的に取り組む意欲を持ち続け、課題に対して情報を分析し、戦略的な計画を立てて、実行可能な解決策を企画・立案することができる。（計画・立案） 協働できる素養 6. 自己の意見を正確に伝え、他者の意見を聴くなど協働を促進する対話ができる。（対話能力） 7. 社会や企業・組織の中で、協調、協働しながら、与えられた役割を最後まで果たすことができる。（協調性・完遂能力） 忠恕の心 8. 常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

（概要）

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、系統的な教育課程を編成しています。また、教育効果を最大限に高められるように、授業の形式を問わずアクティブラーニングを推進しています。学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。

確かな専門性

1. 経営学を学ぶ上で必要とされる、マネジメント及びビジネスの仕組みを理解することに必要な経営学・会計学・マーケティング・経営統計・経営情報など基礎的な知識を修得するための科目を学部基礎科目、学部基幹科目に開講します。

2. 学部基幹科目、学部展開科目において、現代社会における組織や企業活動を遂行するため基本的な知識や技能を習得するとともに、統計データ分析等の理解を深める科目を開講する。また、学生が履修するコースの学びを深めるため、学科別専門科目「専門基礎科目」を開講します。

3. スポーツビジネスの現場で必要な知識、技能を深め、現代社会に適応しているための見識や効果的に組織化するための能力を習得できる科目を学科別専門科目「専門基幹科目」「専門展開科目」および「オフキャンパス科目」に開講します。

4. スポーツ業界で自らの職務をより適切に遂行することが可能となる資格取得や各種検定合格を目指すための教育プログラムを正課外に設定し、学生の学修を支援します。

社会で実践する力

5. 企業連携PBL科目（社会連携PBL科目）を配置し、課題解決に向けて実行可能な解決策を企画・立案する。またその過程の中で、チームとして協調、協働の態度を養い、自分の役割を理解し、最後までやり遂げる能力を育成します。

6. 人々の生活や、社会が豊かにするための課題を発見し、その課題解決に向けた取り組みの重要性やその影響力について、調査・研究を論文としてまとめるため、専門演習科目「専門演習3・4（3年次開講）」「専門演習5・6（卒業研究ゼミナール）」を開講します。

協働できる素養

7. 大学共通科目における初年教育科目である「成蹊基礎演習1・2」及び「スタディスキルズ1・2」、2年次以降の専門演習科目において、他者の意見を聴く、自分の意見を正確に伝えるなどの対話を通じて課題の理解を協同で深める力を養う科目を開講します。また、学部横断型の連携科目の開講および学びにおいて関連性の高い科目について自由枠を活用して履修できることで、学部を超えた交流を育みます。

忠恕の心

8. 大学共通科目における教養科目において、創造力の育成、感性豊かな人間性の醸成、社会および自然への理解のために、「人間と智」「国際社会と日本」「科学と環境」「健康とスポーツ」及び外国語科目を中心として、他者のために献身する「忠恕の心」を養う科目を開講します。

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実習」から構成されており、すべての授業において「アクティブラーニング」を進めています。「講義」では、教員の一方的な授業ではなく、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を展開しています。「演習」「実習」では、グループやペアで協力しながら課題に取り組む授業や、学外に出て、社会の人々との関わりの中で学びを深めていく授業、さらに自治体、企業、団体などと連携して、実際の社会で起きている様々な課題の解決に取り組む授業などを展開しています。また、学修の成果を振り返りながら、成長を実感したり、課題を明らかにしたりできる授業も展開しています。いずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。また、学生のジェネリックスキルの測定にあたっては外部試験を活用して客観的に把握できるようにしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

（教育目的）

現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「スポーツ業界に係るビジネス（業務の設計、運用）とマネジメント（経営資源の管理と活用）に関する基礎的能力とスキル」及び「コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を身につけ、スポーツ業界における現代の多様な経営課題の解決に貢献できる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学科では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲

（1）大阪成蹊大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。

（2）将来、スポーツ業界で活躍し、その発展に貢献したいという意欲を持っている。

2. 知識・技能

（3）高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。

（4）現代の社会に関する基本的な知識を身につけている。

3. 思考・判断・表現

（5）他者の意図を適切に理解し、自分の考えをわかりやすく表現することができる。

（6）スポーツ業界を取り巻く様々な事象について論理的に考えることができる。

4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

（7）多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

学部等名 経営学部 国際観光ビジネス学科

教育研究上の目的（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

(概要) 大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学科は、現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「グローバル化が進む産業及び観光関連産業に係るビジネス（業務の設計と運用）とマネジメント（経営資源の管理と活用）に関する基礎的能力とスキル」及び「国際コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を修得し、グローバル化が進む産業及び観光関連産業における現代の多様な経営課題の解決に貢献できる「人間力」を備えた人材を育成します。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等） https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/
(概要) 際観光ビジネス学科では、卒業要件単位の修得を通して、以下に示す「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与します。特に学士には、幅広い分野・領域で高い専門性を発揮するための確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。 確かな専門性 1. グローバル産業及び観光関連産業におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）およびビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる。 2. グローバル産業及び観光関連産業における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識、技能（企画・運営、会計、流通、商品開発）を理解し身につけ、職務に係る問題解決のために専門知識、技能を応用できる。 （1）企画・運営：事業体の経営に対して実証的な裏付けのある見解を持つことができる。 （2）会計：資金の流れを把握し、経済活動の結果を貨幣を単位として記録、計算、管理することができる。 （3）流通：流通過程を設計し、問題解決に資することができる。 （4）商品開発：顧客のニーズを把握し、満足度の高い商品を提案できる。 （5）管理：事業体の環境適応性を理解し、適切に組織化できる。 （6）国際コミュニケーション能力：英語をツールとして使いこなし、言語および文化的背景の異なる相手との関係を築き、グローバル産業や観光関連産業において協働することができる。 3. グローバル産業及び観光関連産業における事業体の環境適応性を理解し、適切に組織化し、システムを有効に活用し、顧客に対するサービスの品質を維持・向上させることができる。 社会で実践する力 4. 問題課題発見にあたり、必要な情報を収集・分析・活用する。 5. 問題課題解決に向けて方策を企画・立案することができる。 6. 課題解決に主体的に取り組む意欲を持ち続け、積極的にかかわることができる。 7. 諦めずに、最後までやり遂げることができる。 協働できる素養 8. 自己の意見を正確に伝える、他者の意見を聴くなどのコミュニケーションができる。 9. 社会や企業・組織の中で、協調、協働でき、役割を果たすことができる。

忠恕の心

10. 常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

（概要）

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、系統的な教育課程を編成しています。また、教育効果を最大限に高められるように、授業の形式を問わずアクティブラーニングを推進しています。学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。

教育課程の編成

本学部の教育課程は「大学共通科目」、「専門科目」の2つの科目群で構成されています。「大学共通科目」には、「初年次科目」「外国語科目」「教養科目」「キャリア科目」があります。「初年次科目」「外国語科目」は、「学びの基礎」「文章と表現」「情報リテラシー」「外国語」「留学生科目」から構成され、大学での学びの基礎や社会人としての基本的な能力を身につけます。「教養科目」は、「人間と智」「国際社会と日本」「科学と環境」「健康とスポーツ」の科目群で構成され、人間性や自己を取り巻く環境に対する深い関心と理解力を身につけます。

「キャリア科目」は、「学部横断型プロジェクト」「キャリア」科目から構成され、社会の仕組みや組織についての理解を深め、職業選択の能力や高い職業意識、社会人としての職業上の適性・能力を身につけます。

「学科専門科目」は、「学部共通科目」と「学科別専門科目」の2つの科目群で構成されています。「学部共通科目」は、経営学の基礎・基幹を身につける「学部基礎科目」「学部基幹科目」、専門の基礎を固めたり、視野を広げたりするための「学部展開科目」から構成されています。

「学科別専門科目」では、グローバルビジネスや観光ビジネスの現場で必要な知識、技能を身につけた上で、複雑な経営の問題を理解し、改革する力を系統的に身につけられるように、「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門展開科目」を配置しています。また、国際コミュニケーションの能力を養えるように、国際理解を深める海外研修や英語での専門講義科目、ビジネス英語を身につける科目などを配置しています。また、「専門演習科目」では、卒業論文の完成に至るまでの3年間、少人数のゼミ形式で、指導教員の研究指導の下で、専門性を一層深めます。4年間の終わりには、学修の集大成として「卒業論文作成、発表」を行い、4年間の学びを振り返りながら、専門性を深めることができます。

そのほか、様々な資格取得や検定合格をめざす教育プログラムを設定することで、興味や関心、進路に応じて学生の成長をサポートできるようにしています。

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実習」から構成されており、すべての授業において「アクティブラーニング」を進めています。「講義」では、教員の一方的な授業ではなく、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を展開しています。「演習」「実習」では、グループやペアで協力しながら課題に取り組む授業や、学外に出て、社会の人々との関わりの中で学びを深めていく授業、さらに自治体、企業、団体などと連携して、実際の社会で起きている様々な課題の解決に取り組む授業などを展開しています。また、学修の成果を振り返りながら、成長を実感したり、課題を明らかにしたりできる授業も展開しています。いずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。また、学生のジェネリックスキルの測定にあたっては外部試験を活用して客観的に把握できるようにしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

（概要）

現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「グローバル化が進む産業及び観光関連産業に係るビジネス（業務の設計、運用）とマネジメント（経営資源の管理と活用）に関する基礎的能力とスキル」及び「国際コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を身につけ、グローバル化が進む産業及び観光関連産業における現代の多様な経営課題の解決に貢献できる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学科では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲

- （1）大阪成蹊大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。
- （2）将来、実践的な英語力やグローバルな視点を武器に、グローバル産業や観光関連産業で活躍し、産業や地域の発展に貢献したいという意欲を持っている。

2. 知識・技能

- （3）高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。
- （4）現代の社会に関する基本的な知識や基礎的な英語力を身につけている。

3. 思考・判断・表現

- （5）他者の意図を適切に理解し、自分の考えをわかりやすく表現することができる。
- （6）グローバル産業や観光関連産業を取り巻く様々な事象について論理的に考えることができる。

4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- （7）多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

学部等名 芸術学部

教育研究上の目的（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/art/policy/>

（概要）

大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本学部は、芸術教育をとおして成熟した人格形成を達成し、自己のもつ想像力や感性を磨くことで、独創的な発想や表現ができる創造力を育てます。また、芸術をとおして多様な価値観を享受する力を身につけ、社会における人間同士のコミュニケーション能力を高めることで、学園の掲げる行動指針である「忠恕」にかなう、誠実で思いやりのある人間形成をめざします。さらに、芸術による社会貢献を目標に掲げて、より実り豊かな未来を実現すべく活躍できる「人間力」を備えた人材を育成します。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/art/policy/>

（概要）

芸術学部では、卒業要件単位の修得を通して、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与します。特に学士には、幅広い分野・領域で高い専門性を発揮するための確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。

確かな専門性

1. 専門に関する学術的知識と基礎技能

（1）芸術・デザインに関する知識と理解：芸術・デザインに関する歴史的・理論的な学修に基づいた知識と美的判断力を有し、これを有効に活用できる。

（2）造形能力：描画力、色彩計画、素材知識、構成力、構想力、コンピュータスキルを有し、これを有効に活用できる。

1. 表現力：独創性のある新しい造形表現ができる。

2. 技術力：実践において専門的スキルが発揮できる。

3. 構成力：様々な知識や技能を活かして作品にまとめられる。

4. プレゼンテーション能力：作品や企画を社会に対して効果的に発信できる。

2. 社会生活上必要な基礎的教養と能力

（1）文章表現力：論理的な構成の文章で、意図を正しく伝えることができる。

（2）伝える能力：聞き手の理解を確かめ、対話ができる。

（3）計算力：物事を定量的にとらえ、比較対照できる。

（4）学習力：自律、自立して学習できる。

（5）知識と理解：文化、社会と自然に関する一般的な知識をもち、世の中の事象を理解できる。

社会で実践する力

3. 職業生活上、状況分析、課題解決に必要な汎用的知識と技能

（1）情報収集力：課題発見にあたり必要な情報を判断し、収集できる。

（2）分析力：収集した情報を目的に沿って整理し、その関係性や本質を明らかにできる。

（3）課題解決力（完遂力）：課題を解決するための道筋を考え、実践することができる。

協働できる素養

4. 社会を構成する自立した人間として必要な社会人基礎力

（1）主体性：積極的に取り組もうとする態度を身につけている。

（2）行動力：問題解決のため、計画的に行動しようとする態度を身につけている。

（3）協働力：自己の役割を理解し、他者とともに協働しようとする態度と倫理観を身につけている。

（4）コミュニケーション能力：効果的に意思疎通ができ、状況に即した表現ができる。

忠恕の心

5. 「忠恕の心」をもって人や社会と接することができる素養

（1）常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができる。

（2）作品制作を通じて、人々に感動を伝えることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/art/policy/>

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、系統的な教育課程を編成しています。また、教育効果を最大限に高められるように、授業の形式を問わずアクティブラーニングを推進しています。学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスにおいて、養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。

教育課程の編成

芸術学部造形芸術学科の教育課程は「大学共通科目」、「学部専門科目」の2つの科目群で構成されています。「大学共通科目」には、「初年次科目」「外国語科目」「教養科目」「キャリア科目」があります。「初年次科目」は、「学びの基礎」や「文章と表現」、「外国語科目」は、「外国語」、「留学生科目」から構成され、大学での学びの基礎や社会人としての基本的な能力を身につけます。「教養科目」は、「人間と智」、「国際社会と日本」、「科学と環境」、「健康とスポーツ」「AI・データリテラシー」の科目群で構成され、人間性や自己を取り巻く環境に対する深い関心と理解力を身につけます。「キャリア科目」では、自己分析と自己開発にもとづく将来設計の方法を学び、職業選択の能力や職業意識、社会人としての職業上の能力を身につけます。また「学部専門科目」は、「学部共通科目」と「コース別科目」の2つの科目群で構成されています。「学部共通科目」では、芸術の社会的な役割を認識し、専門教養を涵養するための知識、技能、態度と、大学生に求められる基本的な知識、技能、態度を身につけます。「コース別科目」では、ものづくりや情報発信の理念と技能を修得するため、基礎的な造形教育から、多様な美術・デザインの各領域の観賞、発想、表現、発表の諸能力を養います。専門的实践力を基礎から段階的・発展的に学ぶことができるように各科目を配置しています。3年生では本格的な作品制作発表の第一段階として展覧会やファッションショーに取り組み、自身の実践力を確認します。4年間の終わりには、学修の振り返りとその集大成として「卒業研究・制作」を行い、その成果を展覧会やファッションショーのかたちで広く社会に発信することで、芸術家やデザイナーとしての社会的な役割を自覚できるようにしています。

さらに、学部専門教育の実践力を社会に生かすための資格課程として、「教職課程」と「博物館学芸員課程」、インテリア・プロダクトデザインコースの「一級、二級・木造建築士課程」を配置しています。そのほか、様々な資格取得や検定合格をめざす教育プログラムを設定することで、興味や関心、進路に応じて学生の成長をサポートできるようにしています。

教育内容と科目構成

（1）専門領域を超えた幅広い視野と社会教養を養うために、以下の科目を提供します。

【初年次科目】 [学びの基礎] [文章と表現]

【外国語科目】 [外国語] [留学生科目]

【教養科目】 [人間と智] [国際社会と日本] [科学と環境] [健康とスポーツ] [AI・データリテラシー]

（2）卒業後に社会で必要とされる社会人基礎力を養うために、以下の科目を提供します。

【キャリア科目】 [学部横断型プロジェクト] [キャリア]

（3）芸術・デザインの社会的役割を認識し、専門教養を涵養するために、以下の科目を提供します。

【芸術学部共通講義系科目】

（4）芸術・デザインにかかわる領域横断的な知識、技術を修得するために、以下の科目を提供します。

【芸術学部共通演習系科目】 [造形初動演習] [造形演習] [美術・デザイン学外演習]

[ボランティア・スタディ] [プロジェクト演習] [グローバルアート]

(5) 専門分野の実践を専門分野理論と結びつけて省察することができるよう、以下の科目を提供します。

【コース別講義系科目】〔概論〕〔専門研究〕

(6) 芸術・デザイン業界での様々な状況に対応する専門的実践力を修得するために、以下の科目を提供します。

【コース別演習系科目】〔専門基礎演習〕〔専門基幹演習〕〔専門展開演習〕〔卒業研究・制作〕

(7) 資格課程関係科目

【教職課程科目】

【博物館学芸員課程科目】

【一級、二級・木造建築士試験指定科目】

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実習」から構成されており、すべての授業において「アクティブラーニング」を推進しています。「講義」では、教員の一方的な授業ではなく、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を展開しており、芸術学部では、独創的な発想力や鑑賞力を獲得すべく、芸術・デザインの専門的な知識をより深く理解できる工夫をしています。

「演習」や「実習」は、本学科の学びの核であり、学生が主体的に考え行動し、場合によっては協働する授業形態をとっています。また、造形の基礎的スキルを明確な目標を持って自覚的に学ぶことができるように、デッサンや色彩構成などにグレード制を導入し、コンピュータスキルについては、実務的な資格検定と結び付けています。

教養教育とキャリア形成科目等による社会人基礎力の涵養にくわえ、各コースの作品制作等における多様な問題解決実践とプレゼンテーションをとおして、学生は自覚的に人間力を高めることができます。

これらの学びや制作の過程と成果を4年間かけてポートフォリオにまとめていきます。このポートフォリオによって学生自身が自らの取り組みを振り返り、問題点を明らかにし、さらなる成長をめざすことができ、キャリア形成にも役立てることができます。いずれの授業においても、ポートフォリオや学生面談をとおして一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。

卒業研究・制作について

卒業研究・制作は、4年間の学びの集大成として位置づけられています。各コースの学びの体系にしたがって取り組んできた、問題解決研究にもとづく作品制作や研究レポート執筆、および、芸術表現と社会との関わりに目を向けた展覧会企画やワークショップ、社会連携プロジェクトなどにおいて培った知識と経験をもとに、卒業研究・制作に取り組めます。先行研究をふまえたうえで現代をよみ、未来を拓く研究テーマを各自設定することが重要です。それぞれの独自性と主張を社会に強くうったえる力のある作品制作をおこない、展覧会やファッションショーにおいて発表します。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、芸術やデザインにかかわる専門的な知識・技能を含め、「人間力」を構成する個別の能力や技能を身につけることができただかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。制作課題、試験、レポート、授業における発表など多様な方法によって評価を行います。

また、基礎造形力を確実に自覚的なものとするために、デッサンや色彩構成などにグレード制を導入し、コンピュータスキルにおいては実務的な資格検定と結び付けるような、検

証可能な指導方法を導入しています。
さらに、学修成果を向上させるために、教員の密な連携により、学生の学びの状況を共有するとともに、学生による授業評価を行い、教員が主体的に授業改善を絶えず行うことと
しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大
学ホームページ等）
<https://univ.osaka-seikei.jp/department/art/policy/>

（概要）
芸術教育をとおして成熟した人格形成を達成し、自己のもつ想像力や感性を磨くことで、
独創的な発想や表現ができる創造力を育てます。また、芸術をとおして多様な価値観を享
受する力を身につけ、社会における人間同士のコミュニケーション能力を高めることで、
学園の掲げる行動指針である「忠恕」にかなう、誠実で思いやりのある人間形成をめざし
ます。さらに、芸術による社会貢献を目標に掲げて、より実り豊かな未来を実現すべく活
躍できる「人間力」を備えた人材を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学部では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲

（1）大阪成蹊大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた
人に成長しようという意欲を持っている。

（2）造形芸術に関心を持ち、自ら新たな表現やデザイン、美的価値を創造したいという
意欲を持っている。

2. 知識・技能

（3）高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。

（4）造形、美術、デザインについて基礎的な知識や技能を身につけている。

3. 思考・判断・表現

（5）他者の意図を適切に理解し、自分の考えをわかりやすく表現することができる。

（6）柔軟な発想力や表現力を身につけ、社会で起きている事象について考えることがで
きる。

4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

（7）多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけ
ている。

学部等名 教育学部

教育研究上の目的（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームペ
ージ等）
<https://univ.osaka-seikei.jp/department/education/policy/>

（概要）
大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、本
学部は、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる幅広い教養を持ち、「人
間力」を備えた教育の専門家（人間的なふれあいをとおして心のきずなを深め、子ども
の思いを受け止めることのできる人、幅広い学問教養を備え、新しい時代の教育知識を身
につけている人、多角的視点から現代社会の教育課題に対応できる豊かな感性・確かなセ
ンスを身につけている人、教育実践を省察し研究することのできる人）を育成すること
を教育目的としています。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/education/policy/>

（概要）

教育学部では、卒業要件単位修得を通して、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与します。特に学士には、幅広い分野・領域で高い専門性を発揮するための確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。

確かな専門性

1. 教育に関する幅広い教養（一般教養・教職教養・新しい時代の教育知識）や技能（ベーシック・リテラシーおよび専門リテラシー）を身につけている。（＝「幅広い教養・技能」）
2. 教育実践を省察し研究することができる。
 - （1）「実践構想力」：実践を省察しながら授業・保育を設計（デザイン）できる。
 - （2）「実践力」：子どもの尊厳を尊重して共感的に接しながら実践できる。
 - （3）「実践探究力」：協働的な実践の省察を通して実践を基礎づけている枠組みを発見し、新しい実践を提案できる。（＝「実践探究力」「新しい教育課題に対応するセンス」）

社会で実践する力

3. 市民として、問題意識、使命感、ヴィジョンを持って、社会に貢献しようとすることができる。
4. 主体的・継続的に学びつづける生涯学習の方法と習慣を身につけている。（＝「学び続ける習慣」）

協働できる素養

5. 子ども理解を中心に、多角的な視点から他者や異質なものの理解ができる。
6. 他者と協同して、多角的な視点から現代社会の教育課題に対応できる。（＝「新しい教育課題に対応するセンス」）

忠恕の心

7. 常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができる。（＝「共感する心」）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/education/policy/>

（概要）

教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、系統的教育課程を編成しています。また、教育効果を最大限に高められるように、授業の形式を問わず「アクティブラーニング」を実施しています。また、学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスにて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。

その実施にあたり、本学部では、1年次から、教育学の理論的学修と、学校・園での体験・実習を系統的に行うと共に、理論と実践の往還を図るため、これらの取り組みに合わせて、ゼミナール形式の科目として「研究科目」を設定しています。一連の科目において、専任教員の積極的な指導の下、学校現場での体験を学生同士で省察し、各自が、教育実践に関する自分なりの課題を見つけ、研究していく力を育てていきます。

教育課程の編成

本学部の教育課程は「大学共通科目」、「専門科目」の2つの科目群で構成されています。「大学共通科目」には、「初年次科目」「外国語科目」「教養科目」「キャリア科目」があります。「初年次科目」では「学びの基礎」や「文章と表現」、「外国語科目」では、「外国語」、「留学生科目」から構成され、大学での学びの基礎や社会人として身につけるべき基本的な技能を身につけます。「教養科目」では、「人間と智」、「国際社会と日本」、「科学と環境」、「健康とスポーツ」、「AI・データリテラシー」から構成され、人間性や自己を取り巻く環境に対する深い関心と理解を身につけます。「キャリア科目」では、職業選択の能力や高い職業意識、社会人としての職業上の適性・能力を身につけます。

また「学部専門科目」は、「専門基礎科目」「専門選択科目」「実践研究科目」の3つの科目群で構成されています。「専門基礎科目」では、教員、保育士としての専門性の基礎を身につけます。「専門選択科目」では、初等教育専攻においては特に「体育」「音楽」「図画工作」といった表現領域の指導、中等教育専攻においては「体育・健康」「英語・グローバル」といった領域の指導とともに子どもが置かれている現代社会の今日的な課題に対する理解を深めます。「実践研究科目」では、教職専門と教科専門、教育実習等での実践と教科や教職の理論科目とを統合して実践を省察し、教育の専門家として学び続けるための実践研究の作法を身につけます。また、学びの集大成として卒業研究を行い、実践の省察を通して焦点づけられてきた各自のテーマを探究します。

教育方法の特色

本学の授業は「講義」、「演習」、「実習」から構成されており、すべての授業において「アクティブラーニング」を進めています。「講義」では、教員の一方的な授業ではなく、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を展開しています。「演習」「実習」では、1年次の見学実習、2年次のボランティア活動と学校体験活動、3・4年次の教育・保育実習など、体験や実習が全学年にわたって体系的に配置されており、入学した学生が着実に力をつけられるよう、学外での学習経験を積み上げていきます。実習参加の際には必ず事前学習を行い、テーマをもって体験・実習に参加する準備を行います。また、実習後には一人ひとりの体験をもとに、実践を丁寧にふりかえり、理論と結びつけながら省察し、レポートを作成します。その内容について、プレゼンテーションやディスカッションで互いに交流していきます。このような仕組みによって、実習的な学習と理論的な学習とが結びつけられ、教育者としての力や視点が養われていきます。このように、本学科では、教育現場での体験・実習と大学での理論的な学習とを有機的に結びつける「実践探究型」の学修を進めています。

また、担任機能を備えたゼミを各学年に配置し、学修支援、学外実習の省察指導、キャリア支援などを日常的にきめ細かく行っています。さらに、教員の専門性や科目の特性に応じ、オムニバス形式の開講や、複数教員での開講などの形式でも授業を実施し、教育効果を高めます。いずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行っています。

学修成果と評価

上記の通り、学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。

特に、授業は「アクティブラーニング」を取り入れ、学外での実習・体験の多い本学部では、ポートフォリオ（あるテーマについて調べたことを記入したノートや作業メモ、それをまとめたレポートや発表に使用した図、日々の実習記録や個別面談内容など）をもとに、多面的に、そして継続的に評価するようにしています。また、同一科目を複数の担当者で担当する場合には、ルーブリックなどの共通の評価基準を用いて、客観的に評価するようにしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/education/policy/>

（概要）

教育目的

本学部は、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる幅広い教養を持ち、「人間力」を備えた教育の専門家(人間的なふれあいをとおして心のきずなを深め、子どもの思いを受け止めることのできる人、幅広い学問教養を備え、新しい時代の教育知識を身につけている人、多角的視点から現代社会の教育課題に対応できる豊かな感性・確かなセンスを身につけている人、教育実践を省察し研究することのできる人)を育成することを教育目的としています。

入学者に求めるもの

本学部では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1. 関心・意欲

- （1）大阪成蹊大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。
- （2）教育活動・保育活動に取り組むことを通して、子どもの健全な発達を支援したいという意欲を持っている。

2. 知識・技能

- （3）高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。
- （4）子どもの「生きる力」を育むことに生かすことのできる経験（各教科に関する学習やクラブ活動、ボランティア活動など）に基づいた知識や技能を身につけている。

3. 思考・判断・表現

- （5）他者の意図を適切に理解し、自分の考えをわかりやすく表現することができる。
- （6）教育・保育に関する問題について論理的に考えることができる。

4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- （7）多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

学部等名 国際観光学部

教育研究上の目的（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/global/policy/>

（概要）

大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、国際観光学部では、社会の変化や時代の要請に応えるべく、現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「グローバル化が進む産業及び観光関連産業に係るビジネスとマネジメントに関する基礎的能力とスキル」及び「国際コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を備え、持続可能な観光経営モデルの創出や地域における観光政策・観光振興、グローバル市場を視野に入れた国際ビジネスの展開など、グローバル化が進む産業及び観光関連産業における現代の多様な経営課題の解決に貢献できる人材を育成します。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/global/policy/>

(概要) 国際観光学部国際観光学科では、卒業要件単位の取得を通して、以下に示す「確かな専門性」「社会で実践する力」「協働できる素養」「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与します。特に学士には、幅広い分野・領域で高い専門性を発揮するための確かな知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。 確かな専門性 1. 現代社会におけるマネジメント（経営資源の管理と活用）及びビジネス（業務の設計と運用）の仕組みを理解できる。（管理とビジネス運営） 2. 観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するために必要な専門知識技能（企画・経営、会計、流通、開発、管理）を身につけ、職務に係る問題解決のために専門知識、技能を応用できる。（国際観光活動の専門知識とスキルの習得） 3. 観光関連産業やグローバル産業、地域における観光事業体の環境適応性を理解し、適切かつ効果的に組織化し、システムを有効に活用し、顧客に対するホスピタリティやサービスの品質を維持・向上させることができる。（国際観光・グローバル産業界・観光事業体への適応と組織化）。 社会で実践する力 4. 現代のグローバル社会や国際観光・産業の現場で遭遇する様々な状況から課題を見つけ出し、それが持つ意義や影響を理解できる。（課題発見） 5. 課題解決に主体的に取り組む意欲を持ち続け、課題に対して情報を分析し、戦略的な計画を立てて、実行可能な解決策を企画・立案することができる。（計画・立案） 協働できる素養 6. 自己の意見を正確に伝え、他者の意見を聴くなど協働を促進する対話ができる。（対話能力） 7. 社会や企業・組織の中で、協調、協働しながら、与えられた役割を最後まで果たすことができる。（協調性・完遂能力） 忠恕の心 8. 常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができる。（対話能力・共感力） 教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等） https://univ.osaka-seikei.jp/department/global/policy/ 教育目的に掲げる「人間力」を備えた人材を育成するために、系統的教育課程を編成しています。また、教育効果を最大限に高められるように、授業の形式を問わずアクティブラーニングを推進しています。学修成果と評価については、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。 〈確かな専門性〉 1. グローバルな視点で経営学・国際観光学を学ぶ上で必要とされる、マネジメント及びビジネスの仕組みを理解するために必要な経営学・会計学・マーケティング・経営統計・経営戦略・経営管理など基礎的な知識を修得するための科目を「学部基礎科目」、「学部展開科目」に開講します。 2. 「観光基礎科目」「学部展開科目」「観光展開科目」において、現代のグローバル社会における観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を遂行するため基本的な知識や技能を習得するとともに、学生が希望するコース（観光ビジネス・観光ホスピタリティ・観光文化デザイン）での学びを追求するための科目を開講します。
--

3. 国際観光に関わる全てのビジネスの現場に必要な知識、技能を深め、現代のグローバル社会に適応するための見識や効果的に組織化するための能力を習得できる科目を「学部展開科目」「観光展開科目」に開講します。

4. 観光関連産業やグローバル産業、地域における組織・企業活動の職務を、実際の現地・現場で体験し、適切に遂行することを目的とした海外・国内での「研修科目」を開講し、学生の体験型学習を支援します。

社会で実践する力

5. 企業連携 PBL 科目(社会連携 PBL 科目)を配置し、課題解決に向けて実行可能な解決策を企画・立案します。またその過程の中で、チームとして協調、協働の態度を養い、自分の役割を理解し、最後までやり遂げる能力を育成します。

6. 国際観光を取り巻く現代のグローバル社会を豊かにするための課題を発見し、その課題解決に向けた取り組みの重要性やその影響力について、調査・研究を論文としてまとめるため、専門演習科目「専門演習3・4(3年次開講)」「専門演習5・6(卒業研究ゼミナール)」を開講します。

協働できる素養

7. 大学共通科目における初年教育科目である「成蹊基礎演習1・2」及び「スタディスキルズ1・2」、2年次以降の専門演習科目において、他者の意見を聴く、自分の意見を正確に伝えるなどの対話を通じて課題の理解を協同で深める力を養う科目を開講します。また、グローバル社会の協働において必要な国際コミュニケーション力を高めるため、大学共通科目に配置する語学科目だけでなく、学部専門科目においても「コミュニケーション科目」として英語演習科目を開講します。

忠恕の心

8. 大学共通科目における教養科目において、創造力の育成、感性豊かな人間性の醸成、社会および自然への理解のために、「人間と智」「国際社会と日本」「科学と環境」「健康とスポーツ」及び外国語科目を中心として、他者のために献身する「忠恕の心」を養う科目を開講します。

教育方法の特色

本学部の授業は「講義」「演習」「実習」で構成され、すべての授業において「アクティブラーニング」を展開します。「講義」では、教員の一方的な授業ではなく、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を展開します。「演習」「実習」では、グループやペアで協力しながら課題に取り組む授業や、学外に出て、社会の人々との関わりの中で学びを深めていく授業、自治体、企業、団体などと連携して、実際の社会で起きている様々な課題の解決に取り組む授業などを展開します。また、学修の成果を振り返りながら、成長を実感したり、課題を明らかにしたりできる授業も展開します。いずれの授業においても、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行います。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、「人間力」を構成する個別の能力や技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度等を明記し、客観的に学修成果を測り、評価できるようにしています。また、学生のジェネリックスキルの測定にあたっては外部試験を活用して客観的に把握できるようにしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/departments/global/policy/>

(概要) 現代の社会・経済・経営・情報環境の下で求められる「グローバル化が進む産業及び観光関連産業に係るビジネスとマネジメントに関する基礎的能力とスキル」及び「国際コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を備え、持続可能な観光経営モデルの創出や地域における観光政策・観光振興、グローバル市場を視野に入れた国際ビジネスの展開など、グローバル化が進む産業及び観光関連産業における現代の多様な経営課題の解決に貢献できる人材を育成することを教育目的としています。 入学者に求めるもの 本学部では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。 1. 関心・意欲 (1) 大阪成蹊大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。 (2) 将来、グローバル産業や観光関連産業、地域における組織・企業で活躍し、産業や地域の発展に貢献したいという意欲を持っている。 2. 知識・技能 (3) 高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。 (4) 現代の社会に関する基本的な知識を身につけている。 3. 思考・判断・表現 (5) 他者の意図を適切に理解し、自分の考えをわかりやすく表現することができる。 (6) グローバル産業や観光関連産業を取り巻く様々な事象について論理的に考えることができる。 4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 (7) 多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

学部等名 データサイエンス学部 教育研究上の目的（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等） https://univ.osaka-seikei.jp/department/data_science/policy/
(概要) データの時代にこそ必要とされる「人間力」を高め、データを正しく扱うための知識や技能、科学的方法についての理解を持ち、データから新しい知見や価値を見出す分析力と思考力、データをもとに社会や組織の課題を解決していくための創造力や実践力、コミュニケーション力、協働力、データ活用にあたっての倫理観を備え、データサイエンスによる課題解決や課題探索により未来の社会づくりに貢献するデータサイエンス人材を育成することを教育目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等） https://univ.osaka-seikei.jp/department/data_science/policy/
(概要) データサイエンス学部では、卒業要件単位の取得を通して、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与します。特に学士には、幅広い分野・領域で専門性を発揮するための知識や技能、実践力が求められます。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し、解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要とします。

確かな専門性

1. データサイエンスが必要とする数学や統計学、科学的方法、計算機科学の基礎を理解している。〈数学・統計学・科学的方法、計算機科学の基礎〉
2. データとその扱いに関する基礎として、データを収集・分析・活用・保存するための基本的な技能を体得し、データのもつ情報、法則、関連性等について理解できる。〈データとその扱いの基礎〉
3. データサイエンスが利活用される領域において、データサイエンスによる課題解決に必要な、データを収集・分析・活用・保存するための適切な方法を選択することができる。〈データサイエンスによる課題解決の方法の選択〉

社会で実践する力

4. 人や社会や地域に関わる課題の明確化や課題の解決に向けて、必要なデータを収集・分析・活用・保存するための方法やプロジェクトを提案することができる。〈データサイエンスによる課題解決・課題探索の方法の提案〉
5. 企画・提案した方法やプロジェクトの過程で生じる状況の変化に対して適切に対応するとともに、データを活用した課題の探索や解決を最後までやり遂げることができる。〈データサイエンスによる実践の完遂〉

協働できる素養

6. 対話を通じて他者の意見を聴き、自己の意見を正確に伝えるなど適切なコミュニケーションができる。〈他者とのコミュニケーション〉
7. 社会や企業・組織の中で協調・協働して課題の解決にあたり、自らの役割を果たすことができる。〈他者との協調・協働〉

忠恕の心

8. 常に誠をつくし、人の立場に立って考え、行動することができる。〈忠恕の心〉

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

https://univ.osaka-seikei.jp/department/data_science/policy/

（概要）

教育目的に掲げる高い「人間力」を備えて未来の社会づくりに貢献するデータサイエンス人材の育成を進めるため、上記ディプロマ・ポリシーの達成に十分に配慮した教育内容をもつ教育課程を大学共通科目、専門基礎科目、専門基幹科目、専門展開科目、専門演習科目からなる大阪成蹊大学の科目区分上に編成しています。また、教育方法については、講義・演習の授業の形態によらずアクティブラーニングを導入しています。教育評価については、授業科目ごとにシラバスにおいて養うべき力、到達目標、成績評価の観点と方法、尺度を明記し、客観的に学修成果を測定し、評価できるようにしています。

確かな専門性

1. データサイエンスが必要とする数学や統計学、科学的方法、計算機科学の基礎を修得するための科目を専門基礎科目、専門基幹科目、初年次に開講する専門演習科目「未来クリエーションプロジェクト 1,2」を中心に開講します。
2. 大学共通科目のうち、「AI・データリテラシー」科目群には、データとその扱いに関する基礎的な考え方について、倫理的な課題を含めて学修する科目を開講します。さらに、専門基幹科目、専門展開科目を中心に、データを収集・分析・活用・保存するための基本的な技能を修得し、データのもつ情報、法則、関連性等についての理解を深める科目を開講します。
3. 専門展開科目を中心に、データサイエンスの利活用の対象となる領域においてデータを収集・分析・活用・保存するための適切な方法の選択に関する理解を深め、データサイ

エンスによる課題解決の素養を育む科目を開講します。

社会で実践する力

4. 専門演習科目の「未来クリエーションプロジェクト 3, 4, 5」を中心に、人や社会、地域に関わる課題の明確化や課題解決に向けて、データを収集・加工・分析・活用・保存するための方法やプロジェクトを提案する能力を高める科目を開講します。

5. 「卒業研究 1, 2, 3」を中心に、自ら企画・提案したプロジェクトや調査研究の過程で生じる状況の変化に対して適切な対応をとりながら、取り組みを最後までやり遂げる能力を養う科目を開講します。

協働できる素養

6. 大学共通科目のうち、全学共通の初年次教育科目である「成蹊基礎演習 1, 2」と「スタディスキルズ 1, 2」、専門演習科目を中心に、対話を通じて他者の意見を聴き、自己の意見を正確に伝えるなど適切なコミュニケーションができる能力を育む科目を開講します。

7. キャリア科目の「学外連携 PBL」や「ビジネス・インターンシップ」を中心に、様々な人々との関わりの中で、課題の解決と探索に向けて協調・協働して取り組む科目を開講します。

忠恕の心

8. 大学共通科目のうち、人間性や自己を取り巻く環境に対する深い関心と感性を高める教養科目である「人間と智」「国際社会と日本」「科学と環境」「健康とスポーツ」や外国語科目を中心に、本学の行動指針「忠恕の心」を養う科目を開講します。

教育方法の特色

本学の授業は講義、演習、実習から構成され、課題探索と課題解決のために学修者が何を学び、身に付けることができるかを重視した教育方法をとっています。具体的には、演習、実習科目だけでなく講義科目においても「アクティブラーニング」を促すことが求められ、いずれの授業においても教員の一方的な授業ではなく、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を展開します。とりわけ、専門演習科目では、グループやペアでの演習、実習を行いながら、データサイエンスによる課題解決や課題探索に必要となる他の専門科目への関心や理解を深め、より進んだ学修への動機付けが得られるようにしています。さらに、ゲストスピーカーの招聘や実課題の提供など、企業・自治体等との連携を積極的に取り入れます。また、アカデミックスキルの基礎の獲得をめざす初年次科目では、一人ひとりの学修状況を丁寧に把握しながら、きめ細かな指導を行う。また、「データサイエンスのための数学基礎」、「統計学 1」、「プログラミング基礎」など、基礎的ではあるけれども習熟度に個人差があるとされる基礎科目でも同様に、学生と教員がともに学修の成果を振り返る機会を丁寧に設けて授業を展開します。

学修成果と評価

学修成果の評価は、本学の「人間力」教育の目的に沿って、本学部のディプロマ・ポリシーの達成に必要な個別の能力や技能を身につけることができたかを測ることで行います。具体的には、授業科目ごとにシラバスにて養うべき力、到達目標、成績評価の方法・基準を明記し、適切に学修成果を測り、あらかじめ定めた評価基準で成績評価を実施します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

https://univ.osaka-seikei.jp/department/data_science/policy/

(概要) 教育目的及びディプロマ・ポリシーの達成のために編成された入学後のカリキュラムを踏まえ、複数機会や方法に基づく透明性の高い公正な入学者の選抜によって、以下のような人材の入学を求めます。 1. 関心・意欲 (1) 大阪成蹊大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。 (2) 新しい未来を切り拓く未来社会のクリエイションに関心をもち、データサイエンスに関する専門性を身につけてデータ活用を通じて人や社会に関係する様々な課題を明確にしたいという意欲を持っている。 2. 知識・技能 (3) 高等学校等で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。 (4) 現代の社会に関する基本的な知識を持ち、基礎的な数的リテラシー又は読解力を身につけている。 (5) 科学的方法やプログラミングの基礎に関する知識を持ち、データの持つ意味やデータの正しい扱いについて考えることができる。 3. 思考・判断・表現 (6) データの正しい扱いについて論理的に考えることができる。 (7) 参画したプロジェクトを最後までやり遂げようとする意思を持っている。 (8) 他者の意図を適切に理解し、自分の考えをわかりやすく表現することができる。 4. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 (9) 多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

学部等名 看護学部
教育研究上の目的（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等） https://univ.osaka-seikei.jp/department/nursing/policy/
(概要) 看護の実践に必要な基礎的・専門的知識と技術や態度を理解し、自律して看護実践を行うことができるとともに、生活する人々の多様な健康課題を理解し、高度な医療に必要な技術と支援を探究できる人材、さらに今後、変化する社会が要請する人々への支援と包括ケアシステムや多職種連携の必要性を考え、地域社会に貢献できる看護職者の養成を教育目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等） https://univ.osaka-seikei.jp/department/nursing/policy/
(概要) 看護学部看護学科では、建学の精神を基盤とし看護学の科学的知識および基本的・専門的な知識と技術・態度を培い、地域の多様な健康課題について考え、自律して看護を実践することができ、また高度化する医療と求められる質に応じた看護支援を探究できる能力を涵養し、看護学の発展に寄与できるとともに、変化する現代社会が要請する包括的なケアの推進と多職種連携の必要性を理解し、地域社会に貢献することが出来るリーダーとしての看護職者を育成します。ディプロマ・ポリシーに基づく能力を身につけ、「大学学則」に基づく授業科目および単位数の修得等の規定要件を満たした学生に対しては卒業を認定し、学士（看護学）を授与します。

ア．人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる
イ．人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる
ウ．地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/nursing/policy/>

（概要）

本学の教育は、建学の精神である「桃李不言下自成蹊」に基づいた豊かな人間性の育成を基盤とします。その上で、看護の実践に必要な基礎的能力を持ち自立して看護実践を行い、地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解することができ、また変化する社会が要請する地域包括ケアシステムと多職種連携の必要性を探究し、地域社会に貢献できる看護職者を輩出するというディプロマ・ポリシーを達成するために、カリキュラムを編成しています。

ア．「読む、考える、書く、聴く、発言する」能力を修得するとともに、幅広い教養、専門知識と高い倫理観を涵養するために、大学共通科目、専門科目（基礎分野）及び専門科目（専門分野）を全学年にわたり、バランスよく配置する。

イ．課題に対する探求力を養うとともに、各領域の看護技術や知識の修得を図り、併せてコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養う。

ウ．地域の特徴とそこに居住する様々な世代の人々の生活と地域包括ケアシステムを理解し、臨床や在宅、生活の場における健康課題と予防的視点を含む看護支援について探究する。

教育課程の編成

看護学部看護学科の教育課程の編成は、学生の発達段階と学習段階に対応して、看護学の基盤となる科学的思考、人間と社会を理解するため医学の基礎及び教養科目を配置しています。そのうえで、看護学を学ぶための基本的な知識となる「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の区分に配置した専門基礎科目を学修します。専門科目では、「基礎看護学」から看護の各専門領域および「統合と実践」まで、看護職者としての基本的な専門知識を学修し、併せて看護技術を修得します。

教育方法の特色

学修は「講義」「演習」「実習」で構成されます。「講義室」「演習室」「実習室」はもちろん、地域や臨床施設等の多様な学修の場でもアクティブラーニング手法をもとに、グループワーク等を用いた、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを重視した授業を実施します。これにより知識の理解と活用を促し、課題を探究すると同時に課題をもとにした意見を伝えるためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養います。

学修成果と評価

授業ごとにディプロマ・ポリシーと関連づけた到達目標及び筆記試験等の成績評価方法をシラバスに明記し学習成果を評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修ガイド等の刊行物の配布や大阪成蹊大学ホームページ等）

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/nursing/policy/>

(概要) 本学の建学の精神である「桃李不言自成蹊」に基づいた豊かな人間性を育むとともに、看護の実践に必要な基礎的知識と能力を持ち、専門的知識と技術や態度を理解し、自律して看護教育を行うことができるとともに、生活する人々の多様な健康課題を理解し、高度な医療に必要な技術と支援を探究できる人材、さらに今後、変化する社会が要請する人々への支援と包括ケアシステムや多職種連携の必要性を考え、地域社会に貢献できる看護職者の養成を教育目的とします。 入学者に求めるもの 看護学部看護学科では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。 ア．看護学を学ぶために必要な基礎学力を身に付け、論理的に考え他者に伝えることができる人 イ．看護学と看護実践能力を学ぶ主体性を持ち、多様な人々と協働して学び続けようとする意欲を持つ人 ウ．自身と他者を大切に思い、地域で生活する様々な世代の人々の生活と健康について関心を持ち、看護の知識と技術を学ぶことができる人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3人	－					3人
経営学部	－	15人	15人	7人	1人	0人	38人
芸術学部	－	10人	14人	4人	1人	0人	29人
教育学部	－	16人	24人	5人	0人	2人	47人
国際観光学部	－	8人	5人	0人	2人	0人	15人
データサイエンス学部	－	8人	5人	1人	1人	0人	15人
看護学部	－	6人	4人	6人	9人	1人	26人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		301人					301人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学ホームページにより公表					
		経営学部： https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/teacher/					
		芸術学部： https://univ.osaka-seikei.jp/department/art/teacher/					
		教育学部： https://univ.osaka-seikei.jp/department/education/teacher/					
		国際観光学部： https://univ.osaka-seikei.jp/department/global/teacher/					

	データサイエンス学部： https://univ.osaka-seikei.jp/department/data_science/teacher/ 看護学部： https://univ.osaka-seikei.jp/department/nursing/teacher/
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）	
大阪成蹊大学ではFD委員会を設け、教員の資質の維持向上に努めている。委員会は、副学長や各学部長等で構成している。なお、その他に本学では、全学的な教学改革を推進することを目的とする教学改革会議（構成員：理事長・総長、学長、副学長、学部長、学科長、コース主任等の専任教員、高等教育研究所研究員及び幹部職員等）を開催しており、アドミッション・ポリシーと入試方法の整合、シラバスの一層の充実、アクティブ・ラーニングの推進、適切な成績評価の実施などのプロジェクトを立ち上げ、推進していく中で、特に「FDプロジェクト」が中心となって教員の資質を高める研修を開催している。 【令和7年度におけるFDの開催状況】 各FD研修はすべて全員出席としており、当日の出席がかなわなかった教員については、原則、後日学部長による研修もしくは当日の研修の録画などオンデマンド研修を行っている。 ※令和8年度においても令和7年度同様に全学部でFD研修（全学部共通テーマ及び学部独自テーマ）の実施を予定している。 <経営学部> ・生成AIの利活用による教育の進化（オンライン） ・令和7年度における教学改革の組織的な推進（4月） ・初年次教育（スタディスキルズ/成蹊基礎演習）授業の成果と課題/SDGsを題材とした初年次養育のねらいと実施方針（5月） ・卒業研究・制作指導におけるガイドラインの適切な理解と指導の留意点（6月） ・令和7年度 ビジネス・インターンシップの実施方針とその留意点（6月） ・インスタグラム利用の広報成果と課題（6月） ・経営学部における新たな情報・DX教育のあり方（7月） ・教職課程について（7月） ・成績評価ガイドラインの適切な理解とルーブリックの活用方法/ルーブリックを活用した適切な成績評価に関する研修（8月） ・GPAの分析結果と活用方針（9月） ・アクティブ・ラーニング ワークショップ（1月） ・本学がめざすアクティブ・ラーニング型授業の基本と実施上の留意点/アクティブラーニングの推進に関する研修プログラム（1月） ・令和8年度「シラバス作成の手引き」とシラバス作成の留意点（1月） ・PROGテストの分析結果を踏まえた成果・課題の共有と今後の方針（2月） ・学修成果の可視化の現状と課題/学部カリキュラムの改善のPDCA（コア科目の評価指標の設定と達成度の検証）（2月） ・授業評価アンケートの分析結果と今後の授業改善対策/授業評価アンケートにみる学生の学修傾向と今後の授業改善（3月） <国際観光学部> ・教学PJ、大学委員会と学部委員会における各委員の機能と役割（東出）（4月） ・卒業研究・制作指導におけるガイドラインの適切な理解と指導の留意点（5月） ・SNSを活用した情報発信について（尾崎）（6月） ・令和7年度 ビジネス・インターンシップの実施方針とその留意点（6月） ・令和9年度に向けてのステップ留学について（野村、坂井、ディヴィス、樫本）（7月） ・PROGテストの分析結果を踏まえた成果・課題の共有と今後の方針（7月） ・パーソナル・ブランド・マネジメントプロジェクトのこれまでの成果と今年度の指導方針 + 「敬語・言葉遣い」の研修（7月） ・教職課程について（8月） ・本学がめざすアクティブ・ラーニング型授業の基本と実施上の留意点/アクティブラーニングの推進に関する研修プログラム（9月） ・成績評価ガイドラインの適切な理解とルーブリックの活用方法/ルーブリックを活用した適切な成績評価に関する研修（10月） ・ティーチング・ポートフォリオの作成及びワークショップ（10月）	

・授業評価アンケートの分析結果と今後の授業改善対策/授業評価アンケートにみる学生の学修傾向と今後の授業改善（11月）

- ・GPAの分析結果と活用方針（11月）
- ・令和8年度「シラバス作成の手引き」とシラバス作成の留意点（12月）
- ・初年次教育（スタディスキルズ/成蹊基礎演習）授業の成果と課題/SDGsを題材とした初年次養育のねらいと実施方針（2月）
- ・令和7年度 学外連携 PBL 授業の実施成果報告と次年度に向けて/産業界・地域等との連携による教育研究の深化・拡充（3月）
- ・学修成果の可視化の現状と課題/学部カリキュラムの改善のPDCA（コア科目の評価指標の設定と達成度の検証）（3月）

<芸術学部>

- ・生成AIの利活用による教育の進化（調整中）
- ・令和7年度における教学改革の組織的な推進（4月）
- ・令和7年度 ビジネス・インターンシップの実施方針とその留意点（5月）
- ・卒業研究・制作指導におけるガイドラインの適切な理解と指導の留意点（5月）
- ・制作を研究成果へ整理し外部資金獲得を目指す研修（6月）
- ・初年次教育（スタディスキルズ/成蹊基礎演習）授業の成果と課題/SDGsを題材とした初年次養育のねらいと実施方針（6月）
- ・作品評価の基準を共有するルーブリック作成研修（7月）
- ・成績評価ガイドラインの適切な理解とルーブリックの活用方法/ルーブリックを活用した適切な成績評価に関する研修（7月）
- ・教職課程について（7月）
- ・配慮の必要な学生に対する対応と今後の対策（9月）
- ・GPAの分析結果と活用方針（9月）
- ・退学データを活かす早期支援体制構築研修（10月）
- ・本学がめざすアクティブ・ラーニング型授業の基本と実施上の留意点/アクティブラーニングの推進に関する研修プログラム（10月）
- ・パーソナル・ブランド・マネジメントプロジェクトのこれまでの成果と今年度の指導方針 + 「敬語・言葉遣い」の研修（10月）
- ・ティーチング・ポートフォリオの作成及びワークショップ（11月）
- ・令和8年度「シラバス作成の手引き」とシラバス作成の留意点（12月）
- ・学修成果の可視化の現状と課題/学部カリキュラムの改善のPDCA（コア科目の評価指標の設定と達成度の検証）（2月）
- ・令和7年度 学外連携 PBL 授業の実施成果報告と次年度に向けて/産業界・地域等との連携による教育研究の深化・拡充（3月）
- ・PROGテストの分析結果を踏まえた成果・課題の共有と今後の方針（3月）
- ・授業評価アンケートの分析結果と今後の授業改善対策/授業評価アンケートにみる学生の学修傾向と今後の授業改善（3月）

<教育学部>

- ・令和7年度における教学改革の組織的な推進（5月）
- ・卒業研究関連事項の振り返りと検討（5月）
- ・卒業研究・制作指導におけるガイドラインの適切な理解と指導の留意点（5月）
- ・学修成果の可視化の現状と課題/学部カリキュラムの改善のPDCA（コア科目の評価指標の設定と達成度の検証）（5月）
- ・研究倫理審査の理解と指導の留意点（6月）
- ・大成蹊大学大学院について（6月）
- ・パーソナル・ブランド・マネジメントプロジェクトのこれまでの成果と今年度の指導方針 + 「敬語・言葉遣い」の研修（6月）
- ・実習訪問指導について（7月）
- ・卒業研究の進め方と留意点（7月）
- ・教職課程について（7月）
- ・成績評価ガイドラインの適切な理解とルーブリックの活用方法/ルーブリックを活用した適切な成績評価に関する研修（8月）
- ・教員採用試験対策の概要と指導の流れ（9月）
- ・本学がめざすアクティブ・ラーニング型授業の基本と実施上の留意点/アクティブラーニングの推進

に関する研修プログラム（9月）

- ・令和7年度 ビジネス・インターンシップの実施方針とその留意点（11月）
- ・GPAの分析結果と活用方針（11月）
- ・ティーチング・ポートフォリオの作成及びワークショップ（12月）
- ・令和8年度「シラバス作成の手引き」とシラバス作成の留意点（12月）
- ・初年次教育（スタディスキルズ/成蹊基礎演習）授業の成果と課題/SDGsを題材とした初年次養育のねらいと実施方針（2月）
- ・令和7年度 学外連携 PBL 授業の実施成果報告と次年度に向けて/産業界・地域等との連携による教育研究の深化・拡充（3月）
- ・PROGテストの分析結果を踏まえた成果・課題の共有と今後の方針（3月）
- ・授業評価アンケートの分析結果と今後の授業改善対策/授業評価アンケートにみる学生の学修傾向と今後の授業改善（3月）

<データサイエンス学部>

- ・学生向け研究室紹介の実践共有と研究室運営と学生対応の相互学習（5～6月）
- ・PROGテストの分析結果を踏まえた成果・課題の共有と今後の方針（7月）
- ・生成AI利用状況アンケートの分析結果を踏まえた成果・課題の共有と今後の方針（7～8月）
- ・生成AIの利活用による教育の進化（10月）
- ・教職課程について（10月）
- ・令和8年度「シラバス作成の手引き」とシラバス作成の留意点（12月）
- ・本学がめざすアクティブ・ラーニング型授業の基本と実施上の留意点/アクティブラーニングの推進に関する研修プログラム（2月）

- ・授業評価アンケートの分析結果と今後の授業改善対策/授業評価アンケートにみる学生の学修傾向と今後の授業改善（2月）
- ・初年次教育（スタディスキルズ/成蹊基礎演習）授業の成果と課題/SDGsを題材とした初年次養育のねらいと実施方針（3月）
- ・令和7年度 ビジネス・インターンシップの実施方針とその留意点（3月）
- ・卒業研究・制作指導におけるガイドラインの適切な理解と指導の留意点（3月）
- ・成績評価ガイドラインの適切な理解とルーブリックの活用方法/ルーブリックを活用した適切な成績評価に関する研修（3月）

- ・ティーチング・ポートフォリオの作成及びワークショップ（3月）
- ・令和7年度 学外連携 PBL 授業の実施成果報告と次年度に向けて/産業界・地域等との連携による教育研究の深化・拡充（3月）
- ・学修成果の可視化の現状と課題/学部カリキュラムの改善のPDCA（コア科目の評価指標の設定と達成度の検証）（3月）
- ・GPAの分析結果と活用方針（3月）
- ・配慮が必要な学生に対する対応と今後の対策（3月）
- ・パーソナル・ブランド・マネジメントプロジェクトのこれまでの成果と今年度の指導方針 + 「敬語・言葉遣い」の研修（3月）
- ・令和7年度における教学改革の組織的な推進（3月）

<看護学部>

- ・卒業研究の指導について（卒業研究説明会）（4月）
- ・令和7年度における教学改革の組織的な推進（5月）
- ・合理的配慮が必要な学生の実習指導とその評価について（5月）
- ・配慮が必要な学生に対する対応と今後の対策（5月）
- ・Z世代の実習指導について（6月）
- ・パーソナル・ブランド・マネジメントプロジェクトのこれまでの成果と今年度の指導方針 + 「敬語・言葉遣い」の研修（6月）
- ・初年次教育（スタディスキルズ/成蹊基礎演習）授業の成果と課題/SDGsを題材とした初年次養育のねらいと実施方針（7月）
- ・PROGテストの分析結果を踏まえた成果・課題の共有と今後の方針（7月）
- ・成績評価ガイドラインの適切な理解とルーブリックの活用方法/ルーブリックを活用した適切な成績評価に関する研修（8月）
- ・本学がめざすアクティブ・ラーニング型授業の基本と実施上の留意点/アクティブラーニングの推進に関する研修プログラム（10月）
- ・令和8年度「シラバス作成の手引き」とシラバス作成の留意点（12月）

・教職課程について（12月）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経営学部	260 人	308 人	118.5%	1062 人	1206 人	113.6%	11 人	6 人
芸術学部	240 人	290 人	120.8%	954 人	1089 人	114.2%	7 人	6 人
教育学部	240 人	291 人	121.3%	930 人	1049 人	112.8%	5 人	0 人
国際観光学部	80 人	105 人	131.3%	324 人	365 人	112.7%	2 人	7 人
データサイエ ンス学部	80 人	111 人	138.8%	320 人	318 人	99.4%	0 人	0 人
看護学部	80 人	103 人	128.8%	320 人	354 人	110.6%	0 人	0 人
合計	980 人	1208 人	123.3%	3920 人	4381 人	111.8%	25 人	19 人
(備考) ・入学者数に編入学学生数は含まない。 ・在学生数に編入学生数は含む。 ・在学生数に休学学生数は含まない。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経営学部	291 人 (100%)	0 人 (0%)	277 人 (95.2%)	14 人 (4.8%)
芸術学部	216 人 (100%)	0 人 (0%)	196 人 (90.7%)	20 人 (9.3%)
教育学部	232 人 (100%)	6 人 (2.6%)	214 人 (92.2%)	12 人 (5.2%)
国際観光学部	46 人 (100%)	0 人 (0%)	43 人 (93.5%)	3 人 (6.5%)
合計	785 人 (100%)	6 人 (0.8%)	730 人 (93.0%)	49 人 (6.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) <経営学部> ・東証プライム上場企業 I D O M、N E X Y Z、T O K Y O B A S E、アインホールディングス、あさひ、アドバンスクリエイト、 アルペン、エービーシー・マート、エディオン、グリムス、サイゼリヤ、トーカイ、ヒマラヤ、メイテッ ク、ヤマダホールディングス、ライフコーポレーション、K e e P e r 技研、コーナン商事、セントラル スポーツ、ダイレクトマーケティングミックス、タマホーム、デジタル・インフォメーション・テクノロ ジー、横浜冷凍 ・公務員：大阪府豊能郡豊能町、東京消防庁、大阪市 消防局、京都市 消防局、大阪府警察本部、兵庫県 警察本部、 <国際観光学部> ・東証プライム上場企業 西日本旅客鉄道、日本アクア、トレジャー・ファクトリー、ヤマダホールディングス ・運輸業、郵便業 近畿日本鉄道、ANA 関西空港、ANA 大阪空港、K スカイ、名門大洋フェリー、 ・宿泊業、生活関連サービス業				

阪神ホテルシステムズ ザ・リッツカールトン大阪、コスモスホテルマネジメント、三井不動産ホテルマネジメント、信和ホテルズ、読売旅行、エイチ・ツーオー ・公務 寝屋川市役所 <芸術学部> ・アニメーション スタジオジブリ、京都アニメーション、MAPPA、ピエロ、マッドハウス、ライデンフィルム ・マンガ イラスト 雑貨 カミオジャパン、クツワ、サンタン、高津商会、ジーン、ホリゾン、宝塚舞台、クラウンパッケージ ・ゲーム スクウェア アニックス、カプコン、セガ、レベルファイブ、Cygames、エイチーム、トーセ ・映像 クリーン アンド リバー社、フィンリル、東通インフィニティ、レック ・広告 印刷 Hakuodo DY ONE、電通クリエイティブフォース、あたらす二十一、佐川印刷、ブシロード ・アパレル アダストリア、MARK STYLER、マッシュホールディングス、ドゥミルサンク ・建築 インテリア カッシーナ イクスシー、スペース、デザインアーク、三菱地所コミュニティ、アクタス ・その他 グリコ、アイリスオーヤマ、ハート、アイコム、ロイスエンターテイメント、スタジオアリス ・教育、学習支援業：大阪府（中学校美術教員） <教育学部> ・教育、学習支援業： [小学校教員] 大阪府、大阪市、伊丹市、豊中市、吹田市、京都府、奈良県、神戸市、島根県、和歌山県、高知県、福井県、埼玉県、横浜市、川崎市、石川県、新潟県、広島県、宮崎県、長崎県、鹿児島県、福岡市、など [保育士・保育教諭・幼稚園教諭] 大阪府、大阪市、伊丹市、豊中市、吹田市、高槻市、茨木市、柏原市、神戸市、川西市、京都市、向日市、大垣市、奈良県、西宮市、尼崎市、長浜市、伊勢市、四国中央市、真庭市、若竹学園千里幼稚園、大阪 YMCA 学院、YMCA かわにし保育園、大橋学園豊郷幼稚園、箕面自由学園箕面自由学園幼稚園 など ・金融業：紀陽銀行、大阪商工信用金庫、関西みらい銀行、北おおさか信用金庫、日新信用金庫 など ・卸売業、小売業：パルグループホールディングス、ネクステージ、ゲオホールディングス、ライフコーポレーション など ・サービス業：セントラル警備保障、京都市農業協同組合、コープしが、宝塚舞台 など (備考)					
--	--	--	--	--	--

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

中央教育審議会の答申や政策的な提言を含めて、本学のディプロマ・ポリシーとの関連性も踏まえつつ、学生にとって分かりやすいシラバスの作成に努め、授業の質や教育成果について、常に検証を行っている。

平成 29(2017)年度から、シラバス入力の新フォーマットの構築、シラバス作成の手引きの策定、シラバスチェック体制の構築、シラバス作成及びチェックにあたってのFD研修会の開催等を行っており、現在に至っている。平成 30(2018)年度には、シラバスの記載項目に実務経験の有無の記載欄の新設や、授業の事前・事後の学修課題の記載の具体化等を図った。シラバスにおける記載事項は、全学的な教学改革の取組を反映したものであり、例えば、各授業の養うべき力と到達目標におけるディプロマ・ポリシーに掲げる各要素との対応の明記、アクティブ・ラーニングを促す方法の明記、成績評価の方法・割合・基準等の明記、学外連携学修の有無と連携先の明記、授業外の学修課題や目安となる学修時間等の明記などである。令和元

(2019)年度には、シラバス作成にあたっての留意点や作成例を充実させ、定期試験の扱いに関する注意を新たに徹底した。令和 2(2020)年度から現在までは、コロナウイルス感染症の対策を十分に施しながら、遠隔授業でも教育効果をしっかりと保つことができる科目については限定的に遠隔授業で実施し、また、対面で実施する方が学生の満足度を高め、修熟度を深める科目については対面授業で、と 2 つの実施方式を併用(ハイブリッドでの対応も含む)させることで、質の保証を担保し、教育効果を損なわない授業の運営に努めた。

学生と担当教員の間で、当該科目における学修イメージを事前に共有することの出来る分かりやすいシラバスを作成している。記載項目の充実や各教員の記載方法の工夫を図るとともに、科目区分ごとの本学専任教員によるシラバスチェック体制を充実させ、複数の教員の視点を踏まえたシラバス作成によって、質の向上を毎年図っている。

◆シラバスの作成・公表時期

(1) 作成時期 12 月～2 月

(2) 公表時期 3 月下旬(在学生オリエンテーションをめぐり)

◆シラバスの作成過程

(1) 授業担当教員はブラウザ上から学生ポータルシステムに教員アカウントでログインし、シラバス入力を行う。(～1 月末日)

(2) シラバスを 1 次チェック担当教員がブラウザ上で確認、チェックリストに基づき、担当ごとに 1 次チェックを実施する。(2 月～)

(3) 授業担当教員は 1 次チェック結果を受け取り、修正を行う。(～2 月中旬)

(4) 2 次チェック担当教員がブラウザ上で 2 次チェックを実施する。(～2 月下旬)

<シラバス記載項目>

①授業概要 ②実務経験のある教員による授業科目 ③養うべき力と到達目標(特にディプロマ・ポリシーについては選択できる形としている) ④学外連携学修 ⑤授業方法(アクティブ・ラーニングを促す方法について) ⑥課題や取組に対する評価・振り返り ⑦成績評価(評価方法・割合・基準等) ⑧使用教科書 ⑨参考文献等 ⑩履修上の注意・備考・メッセージ ⑪オフィスアワー・授業外での質問の方法 ⑫授業計画(タイトル・授業内容・授業外学修課題・目安の時間) ⑬アクティブ・ラーニング推進計画

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

各教員は担当授業の学修到達度を査定する際には、シラバスに記載の「成績評価方法」「評価割合」「評価の基準等」に基づいて評価を行う。また、特に、レポート、作品・ポートフォリオ、プレゼンテーション、卒業論文などによる質的評価を行う科目では、適宜ルーブリックを開発・活用している。また、成績評価ガイドラインを定め、成績評価にあたっての考え方や、各評語に関する共通理解を図り、公正で客観的な成績評価に努めている。

本学では、学生の学修成果の獲得状況を客観的に数値化して比較するために GPA 制度を導入し、学生の学修状況の把握・分析、学修・履修指導への活用、成績優秀者への表彰等に活用している。学生に対しては、履修オリエンテーションにおいて、GPA 制度の目的や GPA の算出方法、活用方法等を周知している。また、期末毎に配布される成績表に単位修得数とともに GPA を表記して、フィードバックしている。

成績の分布状況の把握にあたっては、半期ごとに、全授業の成績評価分布のデータを分析して、成績評価の現状と課題を検証している。検証結果をもとに、成績評価に著しい偏りの見られる教員への改善指導や、ルーブリックの活用の推進を図り、公正で客観的な成績評価の実施に努めている。

成績の評語、評点、及びグレードポイント (GP) は、次表のとおり定めている。

区分	成績の評語	評点	GP	評価基準
合格	秀	100 点～90 点	4	「優」の評価以上に優れている
	優	89 点～80 点	3	授業科目の到達目標以上に高度な内容を身につけており、授業で身につけるべき内容を十分に習得している基準を超えて優秀である
	良	79 点～70 点	2	「可」評価以上に優れているが「優」評価に満たない場合
	可	69 点～60 点	1	授業科目の到達目標を満たしており、授業で身につけるべき最低限の内容を習得している
不合格	不可	59 点以下	0	授業科目の到達目標を満たしていない

GPA は、次の式により計算し、小数点以下第二位の値を四捨五入する。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{履修科目の単位数} \times \text{その科目の GP}) \text{ の総和}}{\text{履修科目の単位数の総和}}$$

大学全体の卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) を下記のとおり定め、本学の建学の精神「桃李不言下自成蹊」を体现する「人間力」のある人材として、卒業の認定に際して「何ができるようになっているか」を明確に示している。また、大学全体の卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げる育成する人材像と構成要件を揃えながら、学部・学科別の卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) を策定している。

各授業のシラバスで示す「養うべき力と到達目標」は、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げる各要素と対応するよう設定し、到達目標の達成度を、同じくシラバスに明示する成績評価方法、割合、基準等に基づいて、適切に評価して単位を認定している。卒業要件となる単位数は、学則第 45 条において、科目区分ごとに定め、合計 124 単位以上の修得を要件としている (看護学部においては 132 単位以上の修得を要件としている)。4 年生後期の成績評価終了後、速やかに卒業判定教授会を開催し、各学生の単位の修得状況が卒業要件を満たしているかにつき確認し、卒業判定を行っている。

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

概要

本学では卒業要件単位の修得を通して、以下に示す「確かな専門性」、「社会で実践する力」、

「協働できる素養」、「忠恕の心」を身につけた学生に対し、社会で活躍できる「人間力」を備えたものとみなし、学士の学位を授与している。学士には、幅広い分野・領域で高い専門性を発揮するための確かな知識や技能、実践力が求められる。また、知識や技能だけでなく、社会人として活躍するための、自ら課題を発見し解決していこうとする姿勢や、様々な人と協力して物事に取り組むことのできる素養を必要としている。

確かな専門性

1. 確かな専門性を磨くための幅広い教養やスキルを身につけている。
2. 専門に関わる確かな知識・技能、職業理解を身につけている。
3. 知識・技能を実践の中で応用することができる。

社会で実践する力

4. 論理的に考え、課題を明らかにすることができる。（課題発見）
5. 豊かな発想力によって、未知の課題にも創造的に取り組むことができる。（企画・立案）
6. 主体性を持ち、積極的に行動することができる。（行動・実践）
7. 困難な課題にも挑み、最後までやりとげることができる。（完遂）

協働できる素養

8. 他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる。
9. 集団やチームの中で固有の役割を果たすことができる。

忠恕の心

10. 常に誠をつくし、ひとの立場に立って考え行動することができる。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経営学部	経営学科	124 単位	☒ 有・無	半期 22 単位
	スポーツ マネジメント学科	124 単位	☒ 有・無	半期 22 単位
芸術学部	造形芸術学科	124 単位	☒ 有・無	半期 22 単位
教育学部	教育学科	124 単位	☒ 有・無	半期 22 単位
国際観光学部	国際観光学科	124 単位	☒ 有・無	半期 22 単位
データサイエンス 学部	データサイエンス 学科	124 単位	☒ 有・無	半期 22 単位
看護学部	看護学科	132 単位	☒ 有・無	年間 50 単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：本学では GPA 制度をより実質化するため、次の 9 項目において GPA を活用している。活用方法については、学内掲示板にも掲載し公表している。 （1）成績優秀者の表彰 ①卒業時に、通算 GPA 上位者で、且つ他の学生の模範となる学修態度を有している者から 1 名ずつに学長賞を授与している。 ②学年ごとに、当該年度の GPA 上位者で、且つ他の学生の模範となる学修態度を有している者から各学部で 2 名ずつに優秀賞、優良賞を授与している。 （2）履修単位数の上限を超えた履修 <経営学部・国際観光学部・芸術学部・データサイエンス学部> 履修単位数の上限を超えた履修を認める際の要件を、直前の学期に 20 単位以上修得し、直前学期の GPA が 3.0 以上の場合に適用する。 <教育学部> 履修単位数の上限を超えた履修を認める際の要件を、直前の学期に 20 単位以上修得し、直前学期の GPA が 3.0 以上の場合、または前年度 1 年間で 40 単位以上修得し、前年度 1 年間の GPA が 3.0 以上の場合に適用する。 <看護学部> 履修上限単位は年間 50 単位とし上限を超える場合は保健師・養護教諭希望者のみを認めている。		

	(3) 成績不振者への学修指導 通算 GPA が下位 20%の者には、アドバイザー教員等が学修状況に関する面談を実施している。 (4) ゼミ配属 一部のゼミに希望が集中した場合、選抜要件の一つとして GPA を参照する場合がある。 (5) 4 年次の卒業研究ゼミの履修要件 ＜経営学部・国際観光学部・芸術学部・教育学部・データサイエンス学部＞ 2 年次修了時の通算 GPA が 1.20 以上、もしくは 3 年次の年間 GPA が 1.20 以上 ＜看護学部＞ 2 年次修了時の通算 GPA が 1.50 以上、もしくは 3 年次の年間 GPA が 1.50 以上 (6) インターンシップ、実習等に参加する際の水準 企業インターンシップや学外で行う実習等に参加する場合、通算 GPA が上位 70%であることを履修の目安に設定している。なお、教育実習や保育実習、その他資格の取得要件となる科目には GPA の目安を設けていない。 (7) 教員採用試験等の学内推薦 学内推薦者を選考する際に、通算 GPA が上位 30%以内であることをその目安として設定している。 (8) 奨学金の推薦 各奨学金の要綱に定めがある場合にはそれに準じ、定めのない場合には通算 GPA が上位 50%以内であることをその目安に設定している。 (9) 休学等の指導 通算 GPA が 1.0 未満である場合、学修状況、出席状況、その他の生活状況を総合的に勘案し、就学意欲の著しい低下等の理由により学修の継続が困難であると判断される場合には、休学等を指導することがある。
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：履修ガイドを HP で公開（ https://univ.osaka-seikei.jp/students/pdf/guide_univ.pdf ）また全学生に配付し公表。また各学部オリエンテーションや教職課程オリエンテーション等で担当教員より説明。

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大阪成蹊大学ホームページ「大学紹介」「キャンパスライフ・学生支援」内にて公表。また、冊子「キャンパスガイドブック」の配布等にて公表。
<https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/campus/>
<https://univ.osaka-seikei.jp/life/facility/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
経営学部	経営学科	795,000 円	250,000 円	227,000 円	教育充実費：197,000 円 休学中の在籍料： 年額 30,000 円(月額 2,500 円)
	スポーツマネジメント学科				

芸術学部	造形芸術学科	1,272,000 円	200,000 円	227,000 円	教育充実費：197,000 円 休学中の在籍料： 年額 30,000 円(月額 2,500 円)
教育学部	教育学科	870,000 円	250,000 円	340,000 円	教育充実費：310,000 円 休学中の在籍料： 年額 30,000 円(月額 2,500 円)
国際観光学部	国際観光学科 (1 年次)	795,000 円	250,000 円	227,000 円	教育充実費：197,000 円 休学中の在籍料： 年額 30,000 円(月額 2,500 円)
	国際観光学科 (2 年次以降)	889,000 円	—	227,000 円	教育充実費：197,000 円 休学中の在籍料： 年額 30,000 円(月額 2,500 円)
データサイエンス学部	データサイエンス学科 (1 年次)	1,200,000 円	250,000 円	234,000 円	教育充実費：204,000 円 休学中の在籍料： 年額 30,000 円(月額 2,500 円)
	データサイエンス学科 (2 年次以降)	1,296,000 円	—	234,000 円	教育充実費：204,000 円 休学中の在籍料： 年額 30,000 円(月額 2,500 円)
看護学部	看護学科 (1 年次)	1,260,000 円	250,000 円	414,000 円	教育充実費：384,000 円 休学中の在籍料： 年額 30,000 円(月額 2,500 円)
	看護学科 (2 年次以降)	1,260,000 円	—	480,000 円	教育充実費：450,000 円 休学中の在籍料： 年額 30,000 円(月額 2,500 円)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 1. 学生支援「なんでも相談窓口」の設置 多様な問題を抱え、修学に不安を感じている学生が相談しやすいよう、「なんでも相談窓口」を設けている。 2. 学生委員会の設置 大学における退学者縮減を主題として、様々な具体策を講じている。 3. アドバイザー制度に基づく教職員連携による学生支援 全ての学生にアドバイザー教員と学生課職員を配し、休学者も含めて学生一人ひとりの状況把握に努めている。教職員連携により、学生個人々人を見守りながら組織的な学生支援を実施している。 4. 学生カルテシステムおよびポータルシステム導入による情報の共有化 毎週、全学生の授業出席状況をアドバイザー教員へ通知する等、学生情報の速やかな共有を図っている。 5. 保証人との連携による取組 欠席調査結果の変化を見ながら、多欠席傾向の学生について本人や保証人へ連絡し、出席奨励指導を実施している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 1. 「キャリアカウンセリング(進路・就職相談)」 各学部・学科・コース担当の就職部スタッフが進路相談、履歴書添削、面接対策および練習など進路・就職に関するサポートを実施しており、企業や各事業所との信頼関係や卒業生の実績を活かした支援体制を構築している。加えて、プロのキャリアカウンセラーを配置、就職活動全般をサポートしている。

2. 「就活サポートプログラム」 就職活動に役立つ様々なサポートプログラムを実施している。就職ガイダンス、応募書類作成、面接対策、グループディスカッション対策など多彩なプログラムを用意、企業・幼稚園・保育園等の採用試験突破・内定獲得を後押ししている。 3. 「就職 WEB システム」 大阪成蹊大学に届いた求人票を、学内および自宅のパソコンからも確認できる環境を整備している。就職面談、学内合同企業説明会、学内個別企業説明会の WEB 予約にも活用している。 4. 「キャリアデザインルーム」 キャリアデザインルームは、本館 1 階・就職部カウンターに隣接しており、企業・保育園および幼稚園・公務員・就職参考書籍の閲覧ができる。また、求人情報をインターネットで検索できるようにパソコンも配置している。 5. 「大阪成蹊就職ガイドブック」 就職活動を乗り切るための手引書として使用している。就職活動の準備が本格化するタイミングに合わせて、学生に 1 冊ずつ配布している。 6. 「学内企業説明会」 学内企業説明会は、企業の人事・採用担当者との直接対話を通して、その企業の事業内容や職務内容を理解することを目的に、年間を通して合同および個別形式で開催している。会社説明を聞くだけでなく、学生から積極的に質問ができるように少人数制セミナー形式で実施している。毎年、様々な業界から大阪成蹊大学生を採用したいと考えている優良企業を多数招致、内定獲得に結びつけている。 7. 「Interview Cube」 リモートによる就活へ対応するため、個別の就職相談会やオンライン面接練習等を実施している。	c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 1. 学生支援「なんでも相談窓口」の設置 入学オリエンテーション時、学生支援体制および「なんでも相談窓口」としての機能について具体的に説明している。学生課は、日常的に学生本人や保証人との面談や電話相談を行い、個々の事情に応じて細やかな対応を実施している。 2. 学生相談（カウンセリング）室の設置 誰かに話を聞いてほしいときや困りごとの相談をカウンセラー（臨床心理士・公認心理師）がおこなっている。 3. 障がい学生支援室の設置 大学生活や修学に何らかの配慮や支援が必要な場合、申し出に応じて問題点をともに考え、解決策を提案している。 4. 教職員（アドバイザー、学生課）の連携による支援 学生の心身に関する異変や相談内容の記録については、学園の定める個人情報保護規則に照らして情報を共有し、カウンセラーへも報告し、速やかに対応することで事態の悪化を防止している。 5. 保証人との相互理解による支援 保証人が安心して学生を就学させることができるよう、懸念があれば速やかに報告している。 6. 保健センターの設置 保健センターでは、学生生活を健康で安全に過ごすことができるよう、健康管理や健康増進について支援している。
---	--

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページ上の下記 URL で公表。

1. 大学の教育研究上の目的及び第百六十五条の二第一項の規定により定める方針（卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針）に関すること

<https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/policy/>

2. 教育研究上の基本組織に関すること

<https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/organization/>

3. 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

<https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/teacher/>

<https://univ.osaka-seikei.jp/disclosure/>

4. 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

<https://univ.osaka-seikei.jp/disclosure/>

5. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<https://univ.osaka-seikei.jp/department/syllabus/>

6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

大学全体：<https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/policy/>

経営学部：<https://univ.osaka-seikei.jp/department/management/policy/>

国際観光学部：<https://univ.osaka-seikei.jp/department/global/policy/>

芸術学部：<https://univ.osaka-seikei.jp/department/art/policy/>

教育学部：<https://univ.osaka-seikei.jp/department/education/policy/>

データサイエンス学部：

https://univ.osaka-seikei.jp/department/data_science/policy/

看護学部：<https://univ.osaka-seikei.jp/department/nursing/policy/>

7. 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<https://univ.osaka-seikei.jp/introduction/campus/>

<https://univ.osaka-seikei.jp/life/facility/>

※その他、冊子「キャンパスガイドブック」の配布等にて公表。

8. 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

<https://univ.osaka-seikei.jp/disclosure/>

※情報公開ページの「学則」にて公表。

経営学部：<https://osaka-seikei-nyushi.jp/nyushi-university/exam/management/expense.html>

芸術学部：<https://osaka-seikei-nyushi.jp/nyushi-university/exam/art/expense.html>

教育学部：<https://osaka-seikei-nyushi.jp/nyushi-university/exam/education/expense.html>

国際観光学部：<https://osaka-seikei-nyushi.jp/nyushi-university/exam/global-tourism/expense.html>

データサイエンス学部 : https://osaka-seikei-nyushi.jp/nyushi-university/exam/data_science/expense.html
看護学部 : <https://osaka-seikei-nyushi.jp/nyushi-university/exam/nursing/expense.html>
※入試情報サイトで公表。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F127310108241
学校名 (〇〇大学 等)	大阪成蹊大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 大阪成蹊学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		1,198人（638）人	1,164人（617）人	1,265人（693）人
内 訳	第Ⅰ区分	412人	373人	
	(うち多子世帯)	(95人)	(67人)	
	第Ⅱ区分	176人	184人	
	(うち多子世帯)	(35人)	(36人)	
	第Ⅲ区分	111人	－	
	(うち多子世帯)	(22人)	(23人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	13人	－	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	150人	138人	
	区分外（多子世帯）	336人	353人	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（0）人
合計（年間）				1,269人（693）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	—	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—人	人	人
計	14人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	—人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	一人
訓告	0人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	19人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	一人	人	人
G P A等が下位4分の1	229人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	229人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。